

The University Times

June 2012 Vol. 21

<http://jtimes.jp/utimes>

produced by IELTS by STEP × The Japan Times ©THE JAPAN TIMES, LTD. 2012

CONTENTS

■ Visit a Global Company : グローバル企業訪問 株式会社ブリヂストン	1 2	■ Journalist's Eye : 英字新聞記者の視点 「原発」 / 「テレビ市場」	3	■ News in English 英文記事を読んでみよう	5	■ IELTS リスニングテストのコツ	7
		■ Studying Abroad in the U.S.A. : 私の米国留学 / 読んでほしいの3冊 米国留学記 / 書籍紹介	4	■ University's Challenge : 国際交流に取り組む大学 バイリンガル教育を実践するICU	6	■ Look Around the World : 世界の名所を知ろう バンクーバー	8

Visit a Global Company : グローバル企業訪問

タイヤ、ゴム会社として 名実ともに世界 No.1 を目指す

Vol. 11

株式会社ブリヂストン **BRIDGESTONE**

乗用車、バス・トラック、建設・鉱山車両や航空機などの足下を支え、人や物の移動ニーズを満たすタイヤ製品。世界中のお客さまに最高品質の製品を届けたいという思いのもと、ブリヂストンでは積極的にグローバル化を進めている。

長引く円高や原油・原材料価格の高騰で、日本の製造業が軒並み苦戦する中、約10兆円に及ぶタイヤ市場において、世界トップシェアを有しているブリヂストン。北米、欧州などに現地法人、世界25カ国に178工場

と、世界規模での最適な供給体制を確立し、それぞれの地域に適した高品質な商品を効率良く提供している。

一方で、ブリヂストンが開発・製造しているのはタイヤだけではない。自動車のシート

パッドや太陽電池用接着フィルム、免震ゴムなど、ゴムを中心とする高分子化学・接着技術・構造解析などの技術をもとに部品や製品化を行うノンタイヤ事業は、今や売上の2割を占めるまでになっている。同社は、すでに売上高やタイヤのシェアでは世界一の規模を持つ企業だが、現状に満足することなく、製品やサービス、技術、品質など、あらゆる面での世界一を目指すべく挑戦を続けている。

ブリヂストンがグローバル化に大きく舵を切るきっかけとなった出来事が、1988年の米国ファイアストーン社の買収だ。1980年代、モータリゼーションの進行に伴い、タイヤ業界は世界レベルでの競争が激化していた。その結果、タイヤメーカーは世界レベルでの経営戦略が大きなテーマとなり、グローバル化は一気に加速することとなった。四半世紀が経ち、同社は売上シェア16%を占める世界No.1のタイヤメーカーに成長。前述のとおり、グローバルなネットワークを展開している。「ビジネスの範囲がグローバルに及ぶということは、好むと好まざるに関わらず、英語でのコミュニケーションは必要となります。現在、約500名が海外に駐在しており、過去の赴任も含めると当社スタッフ従業員の3人に1人がキャリアの中で海外を経験するという状況です。一方で、本社業務であっても、日常的に海外の生産拠点や海外のお客さま・取



人事部採用ユニットリーダーの江瀬泰久さん

引先を相手にすることから、国内で働く社員にとっても例外ではありません」

そう話すのは、人事部採用ユニットリーダーの江瀬泰久さん。グループ従業員14万人のうち約7割は外国人という同社。日本の技術者がアメリカで開発されたゴム材料を用いて新たなタイヤを作り、欧州のカーメーカーに営業活動を行うといったダイナミックなビジネス展開も決して珍しくはない。そのためには、異文化との関わりの中で真に理解し合えるコミュニケーションが重要となる。ブリヂストンでは若手社員を対象に、海外関連事業所に約2年間派遣し、グローバルな人材としての真のコミュニケーションスキルと、海外で通用するビジネススキルの向上を目的とする海外トレーニー制度を導入している。

理解し合えるコミュニケーションが重要

「常時、30～40名が世界各地で約2年間の研修兼実務に当たります。2年という期間が長いのか短いかはいろいろと議論があるかと思いますが、われわれとしては何か一つのものにたどり着くために、最低限必要な時間だと考えています」

このトレーニー制度は一般的には海外要員を養成するためのものであるため、初めから語学堪能で選ばれた人のみが参加できるのかと思えば、そういうことでもないらしい。「もちろん言葉が話せるということは重要で、それができなければグローバルなコミュニケーションが始まらないので、語学力は鍛えなければいけません。一方で、世界の多くの国や地域では母国語ではない英語を使っているコミュニケーションが行われています。そこで重要なのは、きれいに話すことよりも、互いを理解し合うこと。相手の考えを正しく理解し、その上で自分の考えや価値観を伝える。これができないことには、海外の仕事はマネジメントできません。海外はこうしたコミュニ



鉱山や採石場で活躍するダンプカーを支える建設・鉱山車両用タイヤ。最大で直径4メートルになる / (右上) 地震による建物の損傷を防ぐだけでなく、人々の暮らしや経済活動の維持・継続に貢献する免震ゴム

Visit a Global Company

グローバル企業訪問

ケーションスキルを学ぶ場でもあるのです」

同社の語学研修で最もポピュラーなのが「英語研修」。英会話レッスンを中心に週1回2時間の授業を半年間、年間300名以上が参加する。さらに、海外でのコミュニケーションや商習慣、仕事の進め方などを学ぶ「グローバルコミュニケーション研修」なども用意。これらの研修である程度のレベルに達した社員は、自身の希望や上司とのコミュニケーションの中で、赴任や留学、トレーニーとして海

外に羽ばたいてゆく。

会社として、個人として、グローバルを特別なものと意識しなくなった時がグローバル化のゴールだと、江淵さんは語る。そのためには、日頃から固定観念にとらわれず、さまざまな価値観と接しながら自分なりに考え、表現していくことが重要だという。この考え方は、そのまま就職活動を迎える大学生にも当てはまる。「就活における情報やマニュアルがこれだけあ

ふれている昨今、それさえ押さえておけばいいと考えがちです。しかし、情報や考えをしっかりと吟味、取捨選択し、自分が何を大切にしている、だからこれをやりたいんだという意思を、しっかりと表現できれば、就職活動は必ず成功するはず。自分の考えや価値観を伝えて、相手の理解を得るための表現力は、就活に有効なだけでなく、海外の人々とコミュニケーションを取る際にも全く一緒。ぜひ意識して鍛えてほしいと思います」

BRIDGESTONE

株式会社ブリヂストン

世界トップのタイヤメーカー。世界シェアは16.1%。世界25カ国に178工場を構える。1988年に米ファイアストーンを買収してグローバル企業へと飛躍した。昨年の創業80周年を機に、企業理念とブリヂストンシンボルを改訂。新たな企業理念は、同社の創業者が社是として制定した「最高の品質で社会に貢献」を「使命」とし、これに向けてグループ14万人の従業員が常に意識する姿勢を「心構え」として、「誠実協調」「進取独創」「現物現場」「熟慮断行」の4つの四字熟語で示した。新タグラインは「あなたと、つぎの景色へ (Your Journey, Our Passion)」。
<http://www.bridgestone.co.jp>

グローバル企業の先輩に聞く！

海外の現場を見て、体験することで、仕事に対する姿勢も変わった

中島 七奈 さん 株式会社ブリヂストン 生産財商品企画部 生産財商品企画第2ユニット



2006年入社。入社後3年半は、生産財（トラック・バス用タイヤ）の国内及び欧州地区の商品企画を担当。現在は生産財商品企画部で、新たなプロジェクトに従事中

Q お仕事内容を教えてください。

A 入社以来、トラック・バス用タイヤの商品企画を担当しています。2010年より2年間、海外トレーニーとしてアメリカに派遣され、今年1月に帰国してからは、グローバル市場の商品情報の分析を行うデータベースの構築業務を主に担当しています。

Q 海外トレーニー制度に参加した理由は？

A すごく海外志向があって入社したわけではなかったのですが、グローバル市場で商品

企画を行う中で、現場はどう考えているか、現地では何が起きているのかを実際目で見ることは、絶対に必要だと考えるようになっていました。トレーニー制度は公募制ではないのですが、日頃から海外に行きたいという気持ちを上司に伝えていたことが、海外行きのチャンスをつかんだ要因かと思います。

Q 英語は得意だったのでしょうか？

A 英語の科目自体は好きだったのですが、海外留学経験もなかったため、入社した時点で英語はほぼ初心者といういい状態

でした。配属が欧州の担当になったこともあり、メールや電話、年に数回の出張などで、英語を使わざるを得ない状況になりました。本格的に勉強し始めたのは入社してからですね。

Q アメリカでの業務は？

A 現地のマーケティングチームに入って、マーケットリサーチのサポート業務を行っていました。コミュニケーションも満足にできないし、マーケティングの経験もほぼなかったので、受け入れ側からしても「この人は何ができるの？」という感じで、なかなか仕事がもらえなかった時期は苦しかったですね。

Q 出張とは勝手が違いましたか？

A ヨーロッパではゲスト扱いということもあって、私のつたない英語でも理解しようとしてくれましたが、アメリカではそうはいきません。また、マネジメントの方々の部下への接し方が日本とは大きく違うと感じました。日本では失敗すると、やり直しを命じられると思うのですが、アメリカの場合は頼んだことがうまくいかない、気付くと担当を外されているということが当たり前なのです。逆に、どんどんアピールすればチャンスはもらえる。仕事をもらうためにも、アピールしながら英語の力も付けなくてはいけないということで、本腰を入れて頑張りましたね。

Q 具体的にはどんな勉強を？

A 1回2時間の英会話レッスンを週3回、3カ月間と重点的に行いました。また、英語力の伸びを感じたのが、アメリカの社会人向けのセミナーへの参加です。その瞬間で理解していかないと、どんどん取り残されてしまいますし、参加者によるディスカッションが行われるため、仕事以外の人と意見を交わす中で、かなり鍛えられたように思います。

Q 心に残っているエピソードはありますか？

A 私の面倒をみてくれていたマーケットリ



英会話レッスンの講師と中島さん（右）

サーチチームの女性マネージャーがいたのですが、私が徐々に仕事や言葉を覚えていく様子を、彼女はすごく良く見てくれていました。ある時、市場分析結果を部門のトップにプレゼンテーションするという、非常に大きな仕事の機会を設けてくれました。アメリカ流のプレゼンテーションはすごく緻密で、入念な準備を必要とします。彼女には、声の出し方や資料の見せ方など、細かい部分までアドバイスをいただき、プレ・プレゼンにまで付き合ってもらった結果、無事成功させることができました。日本人としてではなく、アメリカの組織の中の一担当として扱ってもらえたことにすごく感謝しています。また、アメリカ人はトップの人ほど、完璧なプレゼンを目指し、すごく入念にリハーサルします。日本人も見習うべきだと感じました。

Q 学生へのアドバイスをお願いします。

A 今のうちにやりたいこと、好きなことを思い切りやって、できるだけ自分の引き出しを増やしておいてください。私自身を振り返ってみても、学生時代に経験したことが、現在の仕事や、自分の目指したい方向のベースになっていると強く感じます。特にトレーニーで海外に出てみて、やはり学生のうちに留学しておくというのも一つの選択肢だったと思います。吸収できるものも多く、何物にも代えがたい体験になるはずです。

中島さんのお仕事アイテム拝見



「アメリカへは単身赴任だったので、主人がプレゼントしてくれた手帳カバーにリフィルを入れて常に持ち歩いていました。主に日々感じたことを走り書きしたり、会議中はメモを取りつつ、終わってから再度まとめ直して、理解を深めるのに使っていました」
写真は2年間で使用したリフィルをまとめたもの。

Journalist's Eye

英字新聞記者の視点

日本のニュースを英語で発信しよう！

英字新聞 The Japan Times 記者が語る
日本の「今」を世界に伝えるための心得

—— Vol. 11 by Kazuaki Nagata

日本で起こっていることを外国人に伝えるには、物事の背景を理解し、分かりやすく説明するスキルが求められる。このコーナーでは、記事をより深く理解し、自ら説明できるようになるためのコツを英字新聞 The Japan Times の記者に教えてもらう。今回は、再稼働に向けて改めて議論が巻き起こっている原発問題と大型液晶テレビについて、永田一章記者に伺った。

■原発を使い続ける理由とは？

- Japan should continue using nuclear power because there isn't another energy source that can replace it and because the nation has a responsibility to further its global development using the lessons learned from the crisis. (Kenji Yamaji)
- 日本は原子力発電を使い続けるべきである。それに代わる別のエネルギー源がないことと、その危機から学んだ教訓を生かし、原子力のさらなる発展のため世界に貢献する責任を持つべきだからである—山地憲治

5月5日に国内の原発が全て停止しました。これを機に原発反対派と賛成派の専門家である、NPO法人「環境エネルギー政策研究所 (ISEP)」の飯田哲也所長と、公益財団法人「地球環境産業技術研究機構 (RITE)」の山地憲治理事・研究所長に話を聞きました。

再生可能エネルギーの可能性は

飯田哲也氏は、原発反対派である大阪

の橋下徹市長のアドバイザーも務めていますが、福島原発事故に関する最終的な調査報告書が出るまでは、どの原発も再稼働させるべきではないと言っています。福島の事故が起こる前、日本では原発が電力の30%を占めていました。原発を止め、太陽光発電、風力発電、地熱発電などの再生可能エネルギーを2030年までに30%以上にすべきであるというのが、飯田氏の考えです。

■日本のリビングに大型テレビがやってきた！

- Sharp Corp. unveiled largest televisions for the domestic market that feature liquid crystal display panels. This is a part of the company's bid to shift to a growing and more profitable larger LCD market.
- シャープ株式会社は、液晶ディスプレイパネルを持つ国内市場最大のテレビを発表した。同社は、成長しつつある、より採算性の高い大型LCD市場への移行を試みている。

一般に住まいが狭い日本では、大型のテレビは売れないのではないかと考えられてきました。実際、2011年6月には、60インチ以上のテレビの需要は全体の0.8%に過ぎませんでした。

ところが、2011年後半に急激な伸びを見せて、12月には6.1%に上がったのです。そこで、「これからは大型テレビが求められるようになる」と、この春シャープが新しく発表したのが、60、70、80インチの大型テレビです。

厳しい競争にさらされるテレビ市場

80インチは、国内最大の液晶テレビとなり、値段は95万円となっています。大

型テレビの需要は伸びているようですが、値段と設置スペースを考えると、まだまだニッチ市場だと思います。

アメリカ、カナダなど、もともと大型テレビの需要が高い北米では、日本よりも60インチ以上のテレビの需要があり、実はその販売台数において、日本のメーカーであるシャープが北米シェア1位を占めています。

一方、一般的には30～40インチのテレビが主流だと思いますが、サムスンやLGといった韓国のメーカーの低価格のテレビが市場で高いシェアを占めるようになり、日本のメーカーは厳しい競争にさらされるようになりました。このサイズのテレビ



「反対派」の飯田哲也氏（左）と、「賛成派」の山地憲治氏 YOSHIKI MIURA PHOTO

一方、賛成派の山地氏は、再生可能エネルギーの割合を高める必要はあるものの、自然環境に左右されやすい不安定な再生可能エネルギーが、原発に完全に取って代わるのは難しいと考えています。原発に比べるとコストも高く、例えば原子炉1基分の電力を太陽発電で作ろうとすると、山手線の内側の面積に匹敵するだけのソーラーパネルが必要であるなどと言われています。温暖化対策ということでも、二酸化炭素を発生させない原発は、利用価値のあるエネルギー源だといえます。

この夏の電力は本当に足りる？

このように、原発を廃止できるかということに関しては、専門家の間でも意見が分かれています。再生可能エネルギーは、今すぐ原発に取って代わるのは無理かもしれませんが、今後新しい技術が生まれ、より低コストで効率的に使えるようになるのではないかと人もいます。また、電

力需要は一方的に増えるというわけではなく、技術の発達によって現在より効果的に省エネができるようになり、その結果電力の不足を免れるのではないかとという考え方もあります。

現在最も議論されているのが、原発を止めたままこの夏の電力需要が足りるかどうかということです。政府は、再稼働がない場合は電力が不足し、昨年のような計画停電が必要になる可能性があるかと試算していますが、これも、実際には日中だけ暑くなり、それほど冷房が必要になるかによって変わってきます。一部を再稼働させたからといって、電力が足りるようになるというわけでもありません。

原発について話をするときは、単に原発を「止める」「止めない」、電力が「足りる」「足りない」で考えるのではなく、さまざまな角度から見る必要があるでしょう。

* 参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/text/nn20120506a6.html>
<http://www.japantimes.co.jp/text/nn20120506a8.html>

力の値段が下落しつつあることから、メーカーとしてはより利益の出やすい大型テレビに力を入れているという事情もあります。

テレビでも Skype や Facebook

現在のテレビの特徴として、大型化ということと、もう一つ「スマートテレビ」が標準になっているということがあります。インターネットに接続できる機能があり、テレビの中だけでインターネット電話サービス Skype や、ソーシャルネットワークサイト Facebook などを利用することができます。

インターネットに接続できるという機能は以前から存在しましたが、現在の方が使い勝手が良くなっており、ビデオを見たりゲームをしたり、またスマートフォンやタブレットと連携させて使用したりと、より多くのことに使えるようになってきています。

今の若者には「テレビは必要ない」という人も多いようですが、これからのテレビは、単に「テレビ番組を見る」ためだけに存在するのではなく、人によって異なる目的で使われるようになっていくのかもしれない。

* 参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/text/nb20120419a1.html>



シャープが発売した国内最大「80インチ」のテレビ KAZUAKI NAGATA PHOTO

●今月の記者●

永田一章さん
KAZUAKI NAGATA

2007年ジャパンタイムズ入社。
ビジネス、IT、エレクトロニクス
関連を主に担当。原発問題も継続して取材を行っている。

Studying Abroad in the U.S.A.

私の米国留学

Studying Abroad in the U.S.A.

私の米国留学

アメリカ留学も IELTS の時代へ

～IELTS はアメリカの約 3,000 の大学・プログラムで認定されています～

アメリカの大学や大学院では、これまで多くの日本人学生が学んできました。そして現在もまた、夢を抱いた学生たちが留学しています。彼らはどんな留学生活を送り、留学で何を感じたのでしょうか。このコーナーでは、留学経験者や現在留学中の学生に、留学の様子やメリット、英語学習、アメリカの魅力などについて伺います。

本コラムは以下の 2 団体の協力により連載をしております。

■ JTSAU(米国大学院学生会)http://gakuiryugaku.net/ ■ USCANJ(アメリカ学部卒業生ネットワーク)http://www.uscanj.net/



教育を受ける魅力的な環境

コロラド大学大学院ボルダー校 藤本 浩平さん

宇宙デブリの軌道を研究

小学生の頃、映画『アポロ 13』を見て以来、有人宇宙飛行の地上管制官に憧れ、有人宇宙飛行を行っているアメリカに留学しました。日本の大学を 3 カ月で中退し、ミシガン大学に学部留学しましたが、アメリカでは航空宇宙に携わる職業に外国人が就けないことが分かりました。そこで、当時問題が指摘されていた宇宙デブリ（人工衛星の破片などの宇宙ゴミ）の軌道の研究者へと目標を「軌道」修正。その後、コロラド大学大学院に進み、研究を行っています。現在は修士・博士一貫課程（4 年間）の 3 年目です。

アメリカの学部・大学院教育はとても丁寧だと思います。課題が大量に出る一方で、教授・TA 陣によるサポート体制はしっかりしていますし、カリキュラムも基礎から応用の流れがはっきりしています。教育を受ける環境として、世界中のどこであっても、第一線の舞台で活躍する教授や、ただならぬ熱意で研究に打ち込む学生と切磋琢磨できる環境ほど、魅力的なものはないと思います。私の場合は、その環境がアメリカにあったのだと思っています。

能動的な英語学習が実力をつける

アメリカに住んでいるからこそ思うのは、英語学習で大事なものは環境ではなくて、能動的な学習意欲だということ



地元プロサッカーチームがリーグ優勝した試合にて

です。私もまだライティングは苦手ですが、苦手意識を改善するため留学当初の 2 年間は授業で書かされるエッセーを提出前に必ず教授に添削してもらいました。能動的に勉強していれば、英語の実力がつくと思います。

最後にアメリカの魅力、あえて一つ挙げるとすれば、実にさまざまな人と物と考え方が集まっているのに、きちんと社会が回っているところです。さまざまな差別は現実存在し、人々の政治観や宗教観がぶつかり合うこともしばしばですが、それでも「One nation under God, indivisible」と国旗に誓い、国がバラバラにならないのは、実にアメリカらしいと思います。

藤本 浩平さん プロフィール



1987 年生まれ。小学生の頃 3 年間アメリカで生活。2005 年、ミシガン大学に学部留学。2009 年、コロラド大学大学院に進学。



実感したコミュニケーションの大切さ

会社員（ニューヨーク大学卒）杉浦 正範さん

周囲の学生の刺激を受けながら学ぶ

カリフォルニアにホームステイした高校時代に、スタンフォード大学などで学ぶ日本人学生と交流する機会があり、アメリカの大学に行きたいと思ったのが留学のきっかけです。

まずニューヨークの短大に通い、ニューヨーク大学には 3 年次から編入しました。ニューヨーク大学では東アジア研究と現代美術を専攻しました。ニューヨーク大学を選んだ一番の理由は、自分の研究したい分野のカリキュラムを自分なりに組み立てることができたからです。周りの人たちも勤勉で、ある分野の専門的な人も多く、良い刺激を受けながら大学生活を送ることができました。自分の興味のある分野に没頭でき、それを応援してくれる環境が整っていると思います。

臆せず伝えたほうがいい

2000 年にニューヨークに行った時は、知人も友人もおらず、語学学校の選定から住居探しまで、全て自分で行いました。留学前の英語力は挨拶・自己紹介程度の英語ができる程度でとても苦労しました。今は英語も上達、海外生活における自信もつきました。

留学を通して思うのは、正確な発音を気にして、話さないでいるのは損だということです。主張があるなら今持っている英語力でもいいので伝えた方が良



在学中、学部生紹介ボードに貼られていた写真

いと思います。このように考えるようになり、自分の意見をいかに述べるべきか、またプレゼンテーションすべきかについて考えるようになりました。

アメリカでは学校でも日常生活でも、自らの意見を主張するコミュニケーションが非常に重要です。だまっていたは何も変わりません。「大学のクラスでは主張する人が評価される。後部席で座っているだけでは評価されない」ことを強く実感しました。私にとってアメリカでの留学は、社会構成、人種、宗教の多様性を体験できたことで、日本とアメリカだけでなく、その他の世界へも目を向けるきっかけを与えてくれるものでした。

杉浦 正範さん プロフィール



1982 年生まれ。高校卒業後に渡米、短大を経てニューヨーク大学に編入。卒業後は帰国し、インターネットビジネスの会社に勤務。

JTスタッフがオススメする

読んでほしいこの 3 冊



世界で活躍するには、語学力のみならず、人間の奥深さも大切。読書を通じて、見聞を広めよう。このコラムでは毎回、ジャパネットのスタッフが大学生に向けてオススメする本をご紹介します。

● 今月の推選人 ●

クロスメディア局広告営業部 中川 昇(なかがわ のぼる)

オススメ 1 人間の土地

自身が飛行機乗りであった著者による、20 世紀初頭のまだ飛行機が安全とはいえない時代の飛行機乗りたちの物語。命をかけてミッションを遂行する男たちの高貴さやかっこよさに酔いしれます。宮崎駿の「紅の豚」が、この本からインスピレーションを受けていることは有名。あなたはサハラ砂漠の真ん中に不時着しても、かっこよく振る舞えますか？

サン＝テグジュペリ、堀口大学訳（新潮文庫）



オススメ 2 国盗り物語(一)～(四)

戦国時代の斎藤道三と織田信長にフォーカスした小説。この本を選んだのは、司馬遼太郎を読んだことのない人に、その作品を読んでもらいたいからです。「国盗り物語」でなくても全然構いません。私は高校生まで日本史が大嫌いでしたが、そんな人でも関係ありません。寝食忘れて読んでしまうほど面白い作品が目白押し。

司馬遼太郎（新潮文庫）



オススメ 3 名画をみる眼

普段働いていると現実逃避したくなることがままあります。そんなときは、アートの世界にひたってみることも。本書は、ボッティチェリからピカソまで、いわゆる西洋美術の名画をいくつか取り上げ、その絵の何がすごいかを教えてください。根性では、絵の良さはわかりません。この本を読めば、名画が名画といわれるゆえんが分かり、一皮向けます。

高階秀爾（岩波新書）



News in English

英文記事を読んでみよう

This month's selections from The Japan Times

‘Cool Japan’ transmits culture to the world

Government promotes the arts, food, fashion abroad to cash in on nation's ‘soft power’

Kazuaki Nagata
STAFF WRITER

The auto and electronics industries have served as the economy's main locomotives for decades, but now they are being eclipsed by heavier global competition, particularly from their aggressive Asian rivals.

To offset the dip in dominance, the government is turning to Japan's cultural exports, including animation, fashion and food, to promote Japan's “soft power” in a public relations strategy called “Cool Japan.”

Following are questions and answers about Cool Japan:

What is the strategy about?

The Ministry of Economy, Trade and Industry (METI) is in charge of Cool Japan, the goals of which are to promote the nation's creativity-based industries both at home and overseas.

These industries have about a ¥2 trillion share of the global market, which is projected to surpass ¥900 trillion in 2020. METI aims to expand that share to between ¥8 trillion and ¥11 trillion by then.

METI hopes to facilitate the global entry of some of Japan's small and midsize companies, while luring their creative foreign counterparts here to give them a competitive edge.

It is hoped that the increased presence of Japanese cultural products will attract more international travelers and boost domestic tourism, METI said.

The trade ministry uses the term “creative industries” to describe the businesses targeted by the soft power strategy. But since there is no

strict definition of them, the term can cover everything from *manga*, *anime* and art, to food, traditional crafts, fashion, tourism and music.

METI formed the Creative Industries Division last July to take on the job of promoting the Cool Japan strategy.

Aren't cultural mainstays like *manga* and *anime* already popular overseas?

Yes, but their global expansion has been scattershot, a disorganized approach that has not significantly cultivated merchandising opportunities, for example.

In many cases, such creative industries are represented by small and midsize companies that often lack the wherewithal or finances to run a global operation, said Saeko Tani, chief administrator of the Creative Industries Division.

For example, Japanese fashion magazines for women are popular in China, but not many designers or apparel makers have entered that market despite the business potential, Tani said. Smaller firms face high hurdles in exporting their items, including high costs and the cumbersome procedures that come with running a business in China, she added.

Anime is definitely popular, too, but creators have been struggling amid a decline in sales of packaged media, such as DVDs, and the increase in free content from video-sharing websites.

Japan's anime industry saw overseas sales peak at ¥16 billion in 2006, but by 2010, sales had fallen to ¥9.2 billion.

What are the challenges facing the Cool Japan drive?

A panel at METI has been discussing ways to improve the promotion and sales of cultural exports, but they say strategic footholds are needed overseas to promote and supply such products.

Even if foreigners find Japan's



Here, there, everywhere: Models stroll the catwalk at the Ginza Runway event in March, part of the trade ministry's Cool Japan strategy to popularize Japanese denim and strengthen the image of Tokyo as a center of fashion.

YOSHIKI MIURA

cultural goods attractive, if they aren't supported by a platform in the target market the business opportunity will go down the drain, just like fashion did in China.

The panel thinks small providers should tie up with department stores or shopping malls to open stores overseas and create space for their goods.

Another problem is profit margins. While popular, anime and other cultural media turn little profit if marketed solely through TV.

“It's crucial for anime (production companies) to engage in the content-related product business or copyright business to make a profit. Otherwise, we can't earn enough to create the next anime content,” said Hidenori Oyama, an executive at Toei Animation Co., during a recent panel discussion.

Then there's the government, which experts say should focus on being an intermediary to facilitate collaboration in different fields. Japan should look to South Korea to learn how various businesses collaborate to promote Korean products, they said.

They also said the government should actively negotiate with other countries to ensure overseas markets are more receptive to Japanese competition there. For instance, the government should push for curbs

on the distribution of pirated Japanese content to level the playing field.

Have there been any actual projects?

During fiscal 2011, METI sponsored 13 Cool Japan projects in eight countries: Brazil, China, France, India, Italy, Singapore, South Korea and the United States. All the ideas were generated by private-sector players and screened to determine if they qualified for government subsidies.

One success story was a fashion project in Singapore in which 15 popular apparel makers from Tokyo's Harajuku district teamed up to hold sales in a 50-sq.-meter site in a shopping mall for three months, selling more than ¥20 million in goods. The project made it easier for smaller makers to go overseas by teaming up and securing a hub to sell their wares. Because of the popularity of the project, the team gained a distribution channel to sell their products in Singapore, Tani said.

Also in March, the ministry hosted a gathering of companies looking to sell their products overseas and those hoping to collaborate with them.

The event drew 53 content providers and 36 product suppliers, and some have paired up and are preparing to enter the Indonesian market, METI said.

★ 留学説明会情報 ★

海外大学院への学位留学を支援している米国大学院学生会は6月に、名古屋大学、東京大学、東京工業大学の3大学で留学説明会を開く。大学院留学という一般的なハードルが高い印象があるが、本説明会では、現役の大学院生や修了生を招き、大学院留学に向けた手順や経済的な問題のクリアの仕方などを指南する。参加は無料だが、事前登録が必要。問い合わせは、米国大学院学生会 ryugaku-students-executive@googlegroups.com まで。

● 名古屋大学 ●

6月1日(金) 17時～19時
場所: 名古屋大学 留学生センター
2階 CALE フォーラム
主催: 名古屋大学留学生センター
共催: 米国大学院学生会
後援: 船井情報科学振興財団

● 東京大学 ●

6月4日(月) 18時半～21時
場所: 東京大学本郷キャンパス
工学部2号館213教室
主催: UT-OSAC
共催: 米国大学院学生会
後援: 東京大学卒業生室、
船井情報科学振興財団

● 東京工業大学 ●

6月23日(土) 15時開始
場所: 東京工業大学
大岡山キャンパス S222 教室
主催: 米国大学院学生会
後援: 船井情報科学振興財団

University's Challenge

国際交流に取り組む大学

留学前に英語力を習得する
日・英のバイリンガル教育

国際基督教大学

日本初の教養学部一学部大学として開学、2013年に60周年を迎える国際基督教大学（ICU = International Christian University）。数多くの留学生を受け入れ、早くから英語による授業を行ってきた。日本の大学のグローバル化が進む中、国際化の長い伝統と実績を持つICUが何を目標しているのか、日比谷潤子学長に伺った。

理系の授業も英語で実施

「英語の授業だけで卒業単位を取得することができる大学が増えていますが、本学はそのようなスタイルを目指しているわけではありません。日本の大学として、日本語の授業も大切に、日・英バイリンガルの教育を目指しているのです」と、日比谷潤子学長。同大の教養学部語学科長、学務副学長などを経て、2012年4月に学長に就任した。「学生一人一人を尊重する少人数教育を実現しているところも、大きな特色です。入学式と卒業式で学生一人ずつ名前を呼ぶのは、その理念の表れといえます」

学部は教養学部一学部のみ。文系も理系も網羅し、幅広く学ぶと同時にメジャー（専修分野）の知識を深めていく、欧米では一般的な「リベラル・アーツ・カレッジ」と呼ばれる存在だ。学生の約10人に1人は外国籍で40カ国にも及ぶ。さらに、教員も約36%が外国籍で18カ国。日本語と英語が学内の「公用語」であることから、掲示物もすべて2言語併記。授業だけでなく、キャンパス内でも自然に英語で会話が交わされている環境だ。

英語で行われる授業も多数あるが、他の大学と大きく異なっているのは、物理や化学など、理系の科目についても、外国籍の教員が英語で授業を行うこと。「今、サイエンスは最も英語が必要とされる分野。英語を使いこなすことによって、国際的に活躍する場が開けます。ぜひ、理系の学生にこそ英語を身に付けてもらいたいと考えています」

レベルに合わせた英語の共通科目

1年のうち4月と9月の2回入学時期が設けられ、日本の高校を卒業した人は4月、海外の学校を終えた帰国生や外国が



2012年4月に就任した日比谷潤子学長。社会言語学を専門とする

らの留学生は9月に入学する。1年間は春・秋・冬の3学期に分けられていて、学期ごとに授業が完結。海外からの留学生を受け入れやすいのはもちろん、海外へ留学する際にも履修の区切りがつけやすいという利点がある。「学期ごとに完結することで、一つの内容に集中しやすいのと、別のことに興味が出てきた場合、方向転換しやすいというメリットがあります。語学や文学が好きで入学してきた人が、政治や法学を学んでみたいと考えたとき、次の授業を柔軟に選択することができるのです」

英語でのコミュニケーションに困ることがない人から、「どちらかというと英語は苦手」という人まで、実は学生の英語のレベルはさまざま。4月入学生の共通プログラムとして、従来のプログラムを発展させ、2012年から導入された「リベラルアーツ英語プログラム」（ELA=English for Liberal Arts）では、各自の習熟度に合わせ、大学の授業で必要とされる英語を学ぶことができるようになっている。「入学直後から英語力の高い学生は、すぐにアカデミックな文献の読解と論文作法に入ります。それが難しい場合は学術論文の精読と英文構成法を学び、まだまだ力が足りないかと判断された場合は、英語でのノートの取り方、ディスカッションやプレゼンテーションの方法などを学びます。そして、最終的には皆、英語での論文作成を目指します」

このプログラムでトレーニングを受けた学生は、海外の大学に留学した際、そのまま現地の学生と肩を並べて授業を受けることができるようになる。「日本の高校で英語を学んだだけの学生が、すぐに海外の大学で授業を受けることができるようになるとは思えません。留学を充実したものにするには、それなりに事前の準備が必要とされるのです」

ICUの学生は一般に英語のレベルが高いと考えられているが、それでも海外の大学で正規の授業を受けるだけの実力をつけるために、多くの学生が入学時から1年間ELAで学ぶ。「もちろん、初めから高い英語力を持つ学生も多数いるのですが、全員ではありません。英語力は標準的でも、他の教科のレベルが高ければ入学できるのです。このような学生は、真剣に学ぶことで着実に英語力が伸びます。『海外に出てみたいけれど英語が苦手』という人にこそ、ELAで力を付けてほしいと考えています」



授業が行われる本館前の芝生には、国籍を超えて学生たちが集まり会話を楽しんでいる

コース終了後に一部の学生は英語力を特定する世界共通テストIELTSを受験。留学を考えるにあたって、その結果を英語力の目安の一つとしているようだ。

交換留学のチャンスは5人に1人

ICUには1年間の交換留学プログラムが多数あり、21カ国63大学と協定を結んでいる。1学年の学生数が約620名で、交換留学の定員は約130人となっている。交換留学のチャンスは、実に5人に1人となっている。留学先はアメリカ、イギリスを中心に、中国、韓国などアジアの国も多く含まれている。

留学先で取得した単位は最大で30単位までICUの単位として認定され、学生は留学期間を含め4年間でICUを卒業することが可能だ。タイミングとしては、通常3年の秋学期からとなっている。「留学先の大学で正規の授業を受け、それ相応の成績を取るには、授業に参加できるレベルのアカデミックな英語のほかに、読解力・リサーチ力・理解力・討論力・プレゼンテーション能力・論文作成力など大学の学びに必要な基礎力が不可欠です。ELAプログラムでは、単に語学を学ぶだけではなく、学術論文を読み、アカデミックなテーマについて議論し、レポートを作成することを通して、学びに必要な基礎力を養うのです」

海外の大学での授業の選択に際しては、ICUのナンバリングシステムが役に立つ。ICUではすべての科目に科目記号をつけており、学生は通常、「100番台」「200番台」「300番台」の順に、高いレベルの授業を受講していく。このナンバリングを海外の

大学の授業と比較することで、「私はすでに100番台の授業を終えたので、海外の大学では、200番台に相当するレベルの授業を取ればよい」といったように、体系立てて授業を選択することができるのだ。

また、約6週間の夏休みを利用して、海外でELAの単位の一部を取得する英語研修プログラム「SEA (= Study English Abroad)」を1、2年次向けに実施。1年次の定員は210人、2年次の定員は60人と大変枠が大きく、学生にとって、早いうちに生の英語と異文化に触れる、良い機会となっている。

「アドバイザー制度」が充実しているのも大きな特徴の一つ。准教授以上の専任教員がアドバイザーとして学生一人一人につき、履修計画について指導するだけでなく、学生生活や留学、就職などの相談にも乗ってくれる。こういった細かいサポートも、学生が自信をもって海外に出ていくことができる理由の一つだろう。

今でこそ国際化の流れに合わせて各大学がさまざまな取り組みを行っているが、その草分け的な存在はICUだ。いつの時代も独創的なこの大学の試みと、そこから飛び立つ卒業生からは今後も目が離せない。



ELAの授業風景。先生の話聞くだけではなく、グループに分かれてディスカッションなどを行う

国際基督教大学

日本におけるキリスト教精神に基づく総合大学として、1953年に創立。東京・三鷹に、緑に囲まれたキャンパスを持つ。教養学部一学部によるリベラル・アーツ教育、日本語・英語のバイリンガリズムによる授業やキャンパスライフを大きな特色とする。2008年に改革を行い、学生は入学時には専攻を決めず、2年次の終わりに自身の専門分野を選択するシステムに移行した。

IELTS

テストのコツ



IELTS テストのコツ

by Luke Lawrence

今回から新たに始まる本コラムでは、IELTS テストでよく出題される問題とそのコツをご紹介します。第1回目は、リスニングテストです。

リスニングスキルとボキャブラリー

まず、テスト当日まででできる限り英語を聞く機会を増やしておきましょう。英語独特のリズムやイントネーションに慣れることで、出題文のキーワードにより速く反応できるようになります。英語に慣れる機会を増やすにはポッドキャストがおすすめです。多くは無料でダウンロードできますし、停止や巻き戻しも自由にできるので便利です。

また、IELTS テストでハイスコアを獲得するには、ボキャブラリーを必要十分なレベルまで高めておくことがとても大切です。リスニングセクションでは、ある語句が類義語や似

た意味の句に言い換えられて出題されます。また、反意語が登場することもあり、ボキャブラリーが豊富であるほど有利になるといえます（類義語や反意語に言い換える力は、ライティングセクションでも問われます）。自分だけの単語集を作ることも効果的です。

Form Completion

セクション1でよく見られる出題形式で、空欄に入る単語や数字を出題文から聞き取り、記入します。出題文が流れる前に、どのような単語が入るのか見当をつけておきましょう。以下の例題では、落し物をした人が個人情報を入力する用紙が使われています。

Complete the form. Write **NO MORE THAN THREE WORDS AND/OR A NUMBER** for each answer

Personal Details Form
Name: Mary (1)
Address: Flat 2
 (2)..... (3) Road
 Canterbury
Telephone: (4).....
Estimated value of lost item: (5) £.....

・解答のコツ

- (1)個人名が出るのを待ちましょう。名前のスペルが読み上げられることもあります。
- (2)英語では日本語と逆の順序で住所を書きますので、ここには番地などの数字が入ると推測されます。
- (3)ここは通りの名前が入りそうです。
- (4)ここは電話番号です。
- (5)紛失物の価値（金額）を記入する欄です。

・ワンポイント

出題文の中には紛らわしい情報が含まれることもありますので、気を付けましょう。例えば、出題文の話者が電話番号を間違えて言った後に訂正したり、複数の似たような情報を言ったりすることもあるのです。上記の問題

では、紛失物の価値も問題となっていますが、次のような文章が読まれるかもしれません。

“It’s a bag. I bought it last month for 40 pounds. I suppose the total worth is about 65 pounds because the contents are worth about 20 or 25 pounds.”

文章中に数字が何回か登場しますが、(5)の正解は (£) 65 となります。

Multiple-choice with Single Answer

いわゆる選択問題です。この問題では、意見や心情、議論や推論など幅広い内容の英文を聞き取る力が主に試されます。

右上は、エコロジーに関する文章で予想される例題です。選択肢の中から、出題文の内容に合致するものを選びます。

Choose the correct letter, **A, B** or **C**.

- (1) What is the speaker’s opinion about recycling?
 A. it’s a waste of time
 B. everyone should do it
 C. people should only do it if they understand why they are doing it
- (2) How does she feel about global warming?
 A. She is extremely worried about it
 B. She is slightly worried about some aspects of it
 C. She is beginning to understand it more
- (3) What does she recommend the students do?
 A. Save water but not electricity
 B. Save electricity but not water
 C. Organise an awareness workshop

・解答のコツ

- (1)BとCに比べるとAは少し異質ですので、早々に消去してよいでしょう。
- (2)選択肢はどれも似ており、注意深い聞き取りと英語表現のニュアンスの違いに対する理解が求められます。“extremely”、“slightly”、“beginning to”の同意語が出てこないかどうかに注意しましょう。
- (3)AとBに比べるとCは異質ですので、消去します。残りの2つの選択肢をよく比較し、合致するものを選びましょう。

・ワンポイント

選択肢は似通っているものが多いので注意しましょう。また、明らかに異なる選択肢もありますので、そういうものはまず最初に消去していきましょう。

Classification

この問題では、人物や事柄を特定の項目ごとに分類します。例えば、以下の例題では、出題文を聞いた上で、家事の役割分担がどうなっているかを解答します。

Who will do the following household chores?

- A – Amy
- B – Jamal
- C – Both Amy and Jamal

Write the correct letter, **A, B** or **C** next to questions 1-5

- (1) do the washing up
- (2) take out the rubbish
- (3) clean the windows
- (4) sweep the floor
- (5) wash the car

・解答のコツ

この問題では、出題文から具体的な情報を聞き取ることが大切です。というのも、問題文では、出題文で登場した言葉の同意語や似た意味を持つ句が使われることが多いからです。例えば、出題文では(1)は“do the washing up”の代わりに“do the dishes”と言われているかもしれませんし、(2)は“rubbish”の代わりに“trash”と言われているかもしれません。

・ワンポイント

この問題では「引っかけ」に気をつけましょう。出題文では、答えにつながる情報を言ったように見せかけて、直後に言い直したりします。ですので、最後まで注意深く聞いてから、解答するようにしましょう。

最後に、全ての問題に共通することですが、解答する際のワード数の上限を間違えないように、問題文をよく読みましょう。そして、記入する際には、聞き取った言葉だけを正確にそのまま書き込みましょう。皆さんの健闘を祈っております!

参考情報

IELTS 対策として、幅広い話題をカバーした以下のポッドキャストをお勧めします。
<http://www.bbc.co.uk/podcasts/series/fooc>
<http://www.bbc.co.uk/podcasts/series/forum60sec>
<http://www.bbc.co.uk/podcasts/series/6min>
 British Council のスマートフォンアプリ
<http://learnenglish.britishcouncil.org/en/mobile-learning/myworkbook>

IELTSという名の国際免許証

IELTS (International English Language Testing System, アイエルツ)は、英語圏への留学や、移住を志す人の英語能力を評価するために作られたテストです。信頼性、公平性の高さからイギリス、オーストラリア、アメリカ、カナダを始め世界135カ国で約7,000の機関が、IELTSを受け入れ基準として認めています。2011年の全世界合計の受験者数は、170万人に達し、英語能力試験のグローバルリーダーの役割を果たしています。

日本では、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、岡山、福岡、札幌、仙台、金沢で受験することができます。

お問合せ・受験申し込みは、
 公益財団法人 日本英語検定協会 IELTS 事務局まで
www.eiken.or.jp/ielts

IELTSとは…

16歳以上を対象にしたテストで、英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するアカデミック・モジュールと、英語圏で学業以外の研修を考えている方向けのジェネラル・トレーニング・モジュールの2種類があります。いずれも、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4つのテストで構成されています。

IELTSは、フェアな試験内容と高い信頼性が特徴のテストです。一般的な英語検定テストと特に異なるのは、1対1の面接形式で行われるスピーキングテストがあることです。試験官が、受験者のコミュニケーション力を最大に引き出し、評価できるようにインタビューを行います。これが、他のテストと一線を画す、生きた英語を習得できるのがIELTSの強みです。

ブリティッシュ・カウンシルでは、IELTS 試験対策コースを東京・横浜で開講中!!
www.britishcouncil.or.jp

勉強法や留学した人の体験談がわかる
<https://www.facebook.com/bcofficialIELTSjp>

公益財団法人
日本英語検定協会

公益財団法人 日本英語検定協会は、
 ブリティッシュ・カウンシルと
 日本でのIELTSを共同運営しています

「世界で最も住みやすい都市」を暮らすように旅する

カナダ バンクーバー

カナダ・バンクーバーの魅力は、雄大な大自然の美しさと、そこに住む人々の穏やかな暮らしぶり。それは数日間の滞在で感じ取ることには難しい。中長期の語学留学に最適なバンクーバーは、現地の暮らしに溶け込み、豊かな自然を体感した人ほど、実り多き滞在となるはずだ。

Vancouver (バンクーバー)

カナダ西部のビジネスの中心地で、日本から最も近い北米へのゲートウェイ。近代的な大都会でありながら、水辺の風景や緑の多さなど、自然と調和した街並みの美しさが印象的。



カナダ西海岸からロッキー山脈にかけて広がるブリティッシュ・コロンビア州は、フィヨルドの海岸線や温帯雨林の深い森、神秘的な湖、頂上に氷河が輝く山並みなど、世界でも最も豊かな自然に恵まれたエリアの一つ。ブリティッシュ・コロンビア州では自然と調和した都市づくりを進めていることから、街にいながらも、豊かな自然との触れ合いが思いのまま。

トロント、モントリオールに次ぐカナダ第3の都市・バンクーバーは、「世界で最も暮らしやすい都市」として評価されている街。オフィスや住居が立ち並ぶダウンタウンのビルの間から雪をかぶった山と海の両方が見え、すぐ隣に温帯雨林の森が広がっている。さらに、治安が良く、公共交通が発達しているなど、暮らしやすい条件がそろっている。また、先住民やさまざまな人種が集まっているのもバンクーバーの特徴。そのため人種差別はなく、外国人にとっても生活しやすい。

バンクーバーの魅力を満喫したいのであれば、滞在型のロングステイがおすすめだと語るのは、ブリティッシュ・コロン

ビア州観光局の鈴木結佳さん。「バンクーバーは他の国や都市に比べると、観光的要素は少ないかもしれませんが、しかし、名所巡りなど『非日常』体験を目的とする旅行とは異なり、『日常』を過ごすように滞在するロングステイであれば、この地に暮らす人々のエネルギーや、暮らしやすいと評価される理由を感じることができるはず。そして帰国後の生活にうまく取り入れることで成長もできる。そんな旅になると考えます」

現地の人と同じように生活することで、異文化や暮らしを体感する。ロングステイに向いているバンクーバーは、留学にも最適な都市といえるかもしれない。

現在、バンクーバー市内には、ブリティッシュ・コロンビア大学、サイモンフレイザー大学といった有名大学の他、語学学校が数多くあり、目的や期間、レベルに応じて英語を学ぶことができる。日本からの学生に多いのは、4～6週間の短期語学留学だが、語学学校ではカナダでの進学を目指すプログラムも用意されており、そこから進学するというケースもあるという。



ダウンタウンのすぐそばに広大なスタンレーパークが広がる ©Tourism British Columbia



バンクーバーは都市と自然が調和した都市だ ©Tourism British Columbia

「カナダ人の話す英語は、他の英語圏のどの国よりもキレイだと感じます。私たち日本人にも聞きとりやすいので、語学留学先としても最適だと思いますよ」

現地の暮らしに溶け込むことで見えてくるもの

バンクーバーで働く人々の多くは、就業後の時間を活発に楽しむ。

「夏であれば午後9時頃まで明るいので、多くの人が午後4時くらいに仕事を終えたら、そこから海にカヤック、山にハイキング、気持ちの良いビーチ沿いの道や森にランニング…と、自然と町が近いバンクーバーならではのアクティブな生活を送っています」

旅行者にも行きやすいのは、スタンレーパーク。オフィスや住居のあるダウンタウンの西隣に広がる405haの広大な自然公園だ。公園の外周約9kmは自転車専用道路も作られていて、安全に海を眺めながらのジョギングやサイクリング、インラインスケートを楽しむことができる。公園内には原生林を歩くトレイルやトーテムポール広場、ラッコやベルーガ（シロイルカ）が見られるバンクーバー水族館などもあり、市民の憩いの場となっている。

水辺から街を眺めるのも楽しみ方の一つ。バンクーバー周辺には氷河が残した美しいフィヨルドの海岸線が広がっており、波も穏やか。カヤックの初心者向け講習やレンタルなども行われている。

この他にも、ウィンドサーフィン、カヌー、ラフティング、マウンテンバイク、スキーなど季節を問わず、アクティビティの選択の幅は広い。こうした体験が気軽

にできるのも、街から歩いて行ける近さに海や森が広がるバンクーバーだからこそ。アウトドアスポーツはこの街にとって、もはや日常の一部といえそうだ。

「日本ではクオリティ・オブ・ライフやロハスという言葉が話題になりましたが、バンクーバーの人たちは特に意識せずに、日常的にこうした生活を送っています」

食への意識が高い人たちが集うのが、グランビル橋の下に広がるグランビルアイランドだ。かつての工場地帯が再開発された場所で、採れたてのシーフードやオーガニック野菜を販売するパブリックマーケットやレストラン、ビール工場、アートギャラリーなど、100以上の店が並ぶ。

「地のもを生かしたり、いろいろな文化を取り入れるのがバンクーバーのスタイル。食でもファッションでも、流行ものはほとんどありません。ヨガやオーガニックは、バンクーバーの人たちの日常の一つにすぎないのです。この街で一緒に生活することで、彼らの価値観や地に足の着いた考え方が見えてくることでしょ



グランビルアイランドでは、海の幸をはじめバンクーバーの味覚を堪能したい ©Tourism BC/Tom Ryan

州観光局・鈴木結佳さんのオススメ



バンクーバーは、自分の体を動かしてこそ、その良さを体感できる場所。私も出張には、必ずランニングシューズを持っていきます。走って街を見ると、時間や季節や天気が違ったりするだけで、一つの場所にいろいろな表情が生まれることに驚きます。旅行者でも気軽に安全に走れる美しいランニングコースがたくさんありますので、ぜひ試してみてください。5月の第一日曜日には、バンクーバーマラソンも開催されます。「世界で一番住みやすい街」は、「世界で一番走りたくなる街」です。



スタンレーパークの海岸線を走るランナー ©Vancouver, Coast and Mountains-Bob Young